

## 2020年 東京オリンピック・パラリンピック 世界に誇れるまちへ

平成26年第一回区議会定例会が、2月19日から開会されています。会期日程は3月28日(金)までの38日間で、「平成26年度一般会計予算」などの議案について審議されています。開会にあたり、山崎区長は今年1年の所信を表明し、区民の皆さんと区議会に理解と協力を求めました。

### 区長所信表明 (要旨)

#### 平成26年度予算編成の大綱

日本経済は、輸出が持ち直しに向かい、各種政策の効果が下支えするなかで、家計所得や投資が増加し、景気の回復基調が続くことが期待されています。しかし、海外景気の下振れとともに、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要やその反動が見込まれ、景気は緩やかに回復しているものの先行きは楽観視できず、景気回復の実感は、十分に浸透していない状況です。

国の一般会計総額は、前年度比3.5%増となり、過去最大の予算規模となっています。一方、新規国債発行額は、税収見込み額を2年連続で下回るものの、依然として公債依存度は43%と、厳しい財政状況が続いています。

都の一般会計の予算規模は、前年度比6.4%増で、2年連続の増となっており、政策的経費である一般歳出も、前年度比2.5%増と、一般会計同様に2年連続の増となっています。

また、特別区の財政運営に影響を与える都税収入は、前年度比9.1%増となっています。そのうち法人二税については、前年度と比べて14.2%の大幅な増となっています。

#### 未来への輪をつなぐ 魅力向上予算

本区を取り巻く財政状況は、特別区民税における納税義務者数の増加や、税制改正に伴う均等割の引き上げなどがあることから、特別区税としては、前年度比4.2%増と2年連続の増加で、過去最大規模を見込んでいます。また、特別区交付金も、財源の固定資産税

および市町村民税法人分の増収が見込まれるため、4.6%の増と、特別区税と同様に2年連続の増加を見込んでいます。

このように、歳入の根幹である特別区税、特別区交付金とともに増収となる状況にあります。これまでと同様に、国・都の補助制度を活用することはもとより、これまで培ってきた基金や起債の財政力を最大限有効活用し、将来も見据えたメリハリをつけた予算編成が必要であると考えています。

平成26年度一般会計の当初予算規模は、前年度比5.6%増となっており、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けたまちづくりなど、まちの魅力をさらに引き出す予算として、「未来への輪をつなぐ 魅力向上予算」を編成しました。

予算編成にあたっては、財政の健全性を確保し、将来に向け安定的かつ継続的な区民サービスを提供できる財政基盤を構築するため、外部評価や事務事業の総点検を行うとともに、行財政改革計画に掲げる職員定員の適正化や、区民税の徴収対策をはじめ歳入の確保策に積極的に取り組むなど、財政規律の堅持に努めたところです。

その結果、新たな取り組み56件、事業の拡充21件を予算に反映することができました。



▲広大な敷地を有し、首都圏の基幹市場として整備される豊洲新市場

### 山崎区長が所信を表明



### 本区の重要課題と取り組み

#### 築地市場の 豊洲移転整備

豊洲新市場は、平成27年度竣工の予定で整備を進めていますが、施設建設については、入札不調により一部の工事で若干の遅延が生じており、今後の整備の進捗状況を注視していきます。

市場に併設される千客万来施設については、現在の築地の賑わいを継承・発展させ、新たな観光名所となるよう求めています。

引き続き、確実な土壌汚染対策、地下鉄8号線の延伸などの総合的な交通対策の実施、「豊洲グリーン・エコアイランド構想」に定める環境まちづくりへの最大限の配慮などを都に対して求めています。

#### 中央防波堤埋立地の 帰属

中央防波堤埋立地は長年にわたり、ごみの終末処理をすべて負わされてきた江東区民の犠牲の上に造成された土地であり、本区に帰属することは明白です。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、中央防波堤埋立地でも馬術やマウンテンバイクなど、3つの競技場が整備される予定となっています。

円滑な競技場の整備、運営等のもとより、大会終了後の土地利用を見据えると、早急に本帰属問題を解決しなければならないと考えています。

今後、区民・区議会のご理解とご協力のもと、積極的に大田区

との話し合いを進めていきます。

2面へつづく

◀本区と2か所  
でつながっている中央防波堤埋立地